

八雲、延長サヨナラ

江差、函工に雪辱ならす

秋の高校野球予選

函館支部

第3日の13日、函館オーシャンスタジアムでAプロック2回戦3試合を行った。函大有斗は函稜北に5-10で完封勝利し、八雲は延長十一回で函大谷に5-4でサヨナラ勝ちした。江差は3-6で函工に敗れ、夏の南大会の雪辱は果たせなかった。(西本紗保美)

▽Aプロック2回戦
函稜北00000000000000
函大有斗30010001000X50
(移)山本、宮地、遠藤、葉野
(有)村田、新田
▽二塁打 小泉、床鍋、後藤、浅井
新出(有)

函大有斗は初回、坂本陸斗選手の前打などで満塁とすると、浅井佑太選手の右越え二塁打で2点を先制。この回計3得点し流れをつかんだ。村田滯斗投手は公式戦初登板で完封勝ち。函稜北は九回、床鍋克樹選手の左中間一塁打で走者を三塁まで進めたが、後続が倒れた。

▼強豪相手に粘れた函稜北の三番床鍋克樹選手(2年) 写真1は二塁投手が踏ん張ってくれているので、とにかく打とうと思つた」と九回の打席を振り



返つた。内角寄りの高めの直球を詰まりながらも左中間にはじ返し、二塁打とした。反撃には及ばなかったが「強豪相手に粘れた」と手応えを語る。

今大会での登板はなかったが、自身も投手陣の一員。3兄弟の末っ子で、全員が投手という。受験勉強中の運動不足で入学時に73キロに増えた体重を入部後、投手陣との走り込みで10キロ落とした。脇沢潤一監督(48)は「痩せて体が締まり、打撃もうまくなった」。床鍋選手は「春にはエースをつかみ、2人の兄に活躍を見せ



足つるも決勝打 八雲・小泉選手

延長十一回、サヨナラ打を放った八雲の小泉優星選手(2年)が一塁を回ったところで倒れ込むと、球場は歓声とよめきに包まれた。「両足がつった。うれしさと痛さが同時に来ました」と苦笑いする。

八雲は九回に長打を浴び、投手の悪送球も絡んでまさかの3失点。四回に公式戦初安打を放っていた小泉選手は「次も自分が打つ」と決意し、九回の打席に立ち

「函大谷・八雲 延長十一回 八雲1死三塁、9番小泉選手がサヨナラ右前打を放つ(岩崎勝撮影)」

井上選手の左中間一塁打でリードを3点に広げ、そのまま逃げ切った。江差は神原圭介選手が全打席で安打を放つなど活躍したが、序盤の失点が響いた。

たい」と誓う。
函大谷10000000034
0000
ハ 豊00211000005
001X

(延長十一回)
大佐々木、沢田、佐々木八重
樫(八)松本、北村、北村、久保
▽三塁打 八重星(大)神谷(八)
▽二塁打 川村、神谷(大)森八
ハ雲は2点リードで迎えた五回に森雅哉選手の適時二塁打で1点を加えるなど着実に加点。延長十一回は、左中間三塁打で出塁した瀬戸政広選手が小泉優星選手の適時打で生還、サヨナラ勝ちした。函大谷は九

回到八重樫皇太選手の中越え三塁打などで同点に追い付いたが、あと一歩及ばなかった。

江差10010010000063
0000000000000000
江(江)辻一深見
(江)関東一岩沢